

関東ふれあいの道を歩く (9) 神奈川 (㊟弘法大師と桜のみち)

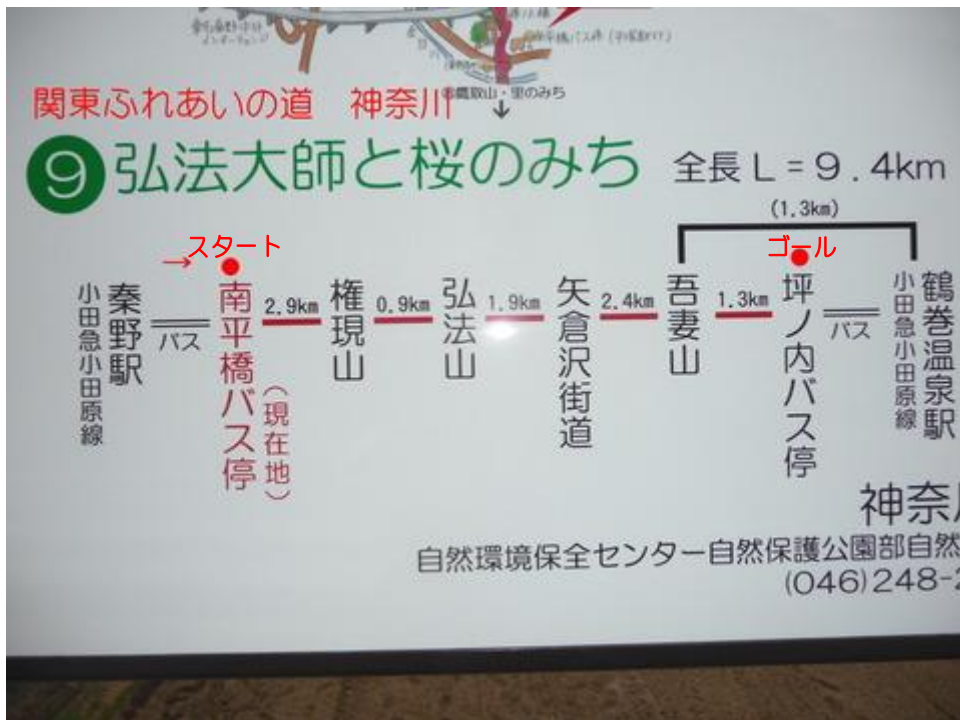
2019年8月5日池内 淑皓

2019年6月5日(水)曇り、あいにく梅雨空であったが、前回の続きを歩き続ける。
今回のコースは、最も一般的なハイキングコースで、秦野の権現山、弘法山を歩き、鶴巻温泉に向かう。
関東ふれあいの道コースは、新善波トンネル経由であり、旧矢倉沢往還を通るコースとなっているが、私は弘法山から尾根通しに吾妻山に向かうコースを歩いた、この尾根コースも森林浴が存分に楽しめる。



(首都圏連絡協議会)

関東ふれあいの道 (9) 神奈川 (㊟弘法大師と桜のみち) 概念図



「㊟弘法大師と桜のみち」 行程図



今日最寄りの下車駅は秦野駅



秦野駅からは南平橋経由の平塚行のバスに乗る事。(橋を経由しないバスもある)



バス停の前には関東ふれあいの道案内板と道標が設置されているから、道標通りに歩く



「健速神社」祭神：須佐之男命、田圃の農道突き当たりに在る。江戸時代は牛頭天王社と呼ばれた。永禄二年（1559）の棟札が残る、本殿は寛永13年の築。



ふれあいの道は、神社をぐるりと回って、高速道路を陸橋で越える



自動車道路はつまらないから歩かず、畑の中の道を直登することにした。



先の舗装道路と合わせて、権現山の尾根に取りつく



「権現山（244m）」頂上は広く、南側は見晴らしが良く、展望台からは秦野盆地が一望の下に見渡せる。



はるばる歩いてきた「㊸鷹取山・里のみち」がよく見える（左遠景）



あじさいの季節にふさわしい素敵な 道しるべ だね



かつてこの尾根は、昔の馬場道と言われ、競馬も行われたと云う。



弘法山への途中で、「⑩弘法大師と丹沢へのみち」が蓑毛方面に分岐する



弘法山は、かながわの景勝50選の山で、整備が行き届いている



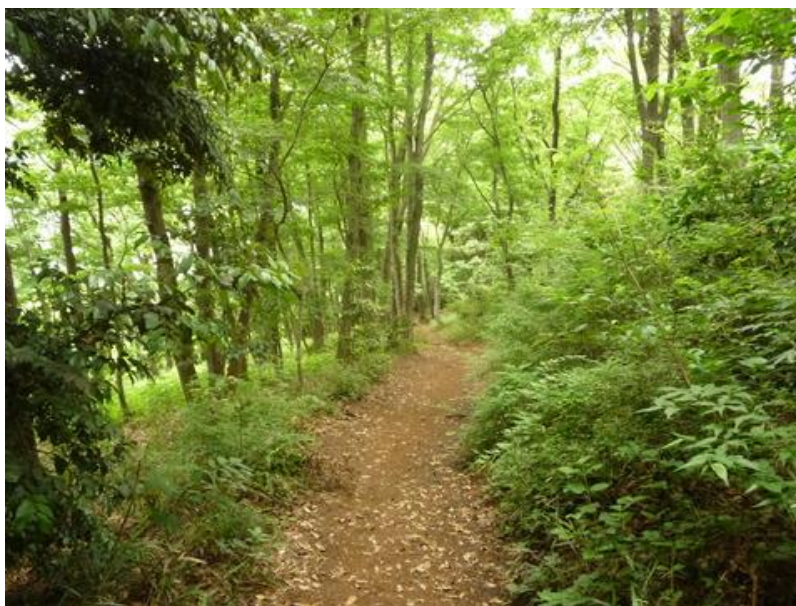
「弘法山（235m）」古くより福泉庵と云うお堂があった。鐘撞堂もある



「釈迦堂」江戸時代に新たに堂を設け、釈迦如来像を祀ったと言う。



ここには道標とともに、里程標が埋め込まれている。



新緑が展葉した今、快適な道が続く。



尾根の中ほどで関東ふれあいの道は、左折して名古木（ながぬき）の集落に出て、新善波トンネルを潜るが、私は尾根をそのまま迎えることにした。



素敵な森林浴の道が待っているのだから、町に出なくても良いと思う。



善波峠への快適なトレイル



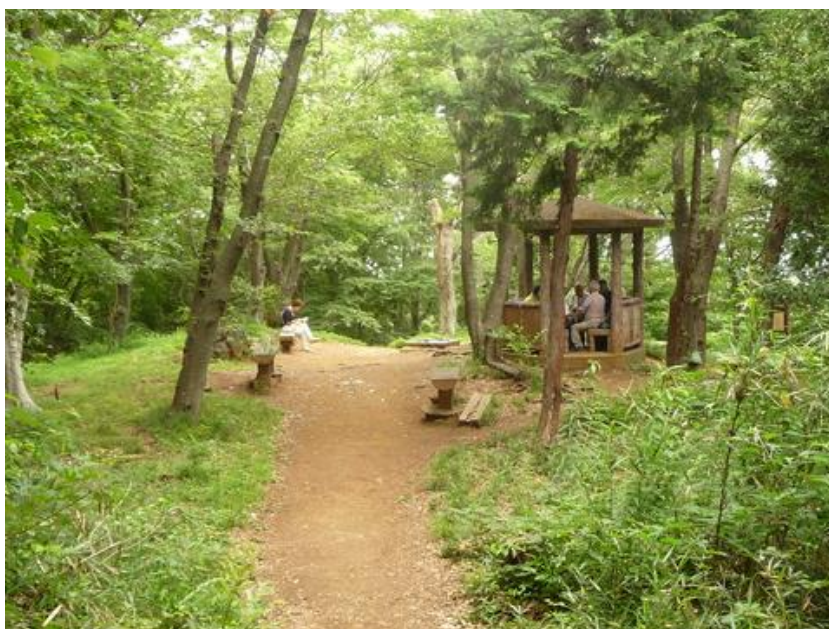
「旧矢倉沢往還の常夜灯」江戸赤坂御門を出た道は青山、渋谷、荏田、長津田、厚木、伊勢原を通り善波峠を越えて秦野盆地に下る。文政十年（1827）峠越えのために常夜灯が建てられた。峠の茶屋の主人八五郎さんは、旅人のために明治の末まで燈明を点灯し続けたと伝える（案内板）。



「善波峠」 左に向かえば丹沢大山へ、右に取れば矢倉沢往還と吾妻山へ



左から旧矢倉沢往還の道、直進は吾妻山、坪ノ内への道、分岐には石の道標が建つ



「吾妻山（155m）」山ではなく、尾根の続きという感じ。
日本武尊が東征の砌、弟橘比売を偲んで「あずまはや」と読まれた場所だと伝える



尾根を下ると鶴巻温泉に向かう道と、坪ノ内バス停に向かう道との分岐に出会う。石の道標には、「左 弘法山二至ル」と案内がある



坪ノ内交差点、国道R246号（東京-沼津線）、旧矢倉沢往還



「坪ノ内バス停」交差点から住宅街に入った所にある、一時間に二本、鶴巻温泉行と伊勢原行が交互に出ている。

秦野駅（9：26）→南平橋（10：00）→健速神社→権現山（11：20）→弘法山（12：05 昼）→吾妻山（13：10）→坪ノ内バス停（13：30-13：46）→鶴巻温泉駅（13：57）

13,800 歩 9.5 km この項完

関東ふれあいの道 10 神奈川 (⑩太田道灌・日向薬師のみち) に続く